



ふくいの伝統行事「坂尻のガリアイ」

ふるさと大賞写真コンテスト

げんでん芸術新人賞

地域の文化活動

ごあいさつ

令和3年6月16日に当財団評議員会及び理事会で選任され、理事長に就任いたしました。

当財団は、平成9年の設立から今年で25年を迎えました。また、平成24年の公益財団法人認可からも10年が経ち、おかげさまで本県の文化の振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに微力ながらもお手伝いできる財団として定着することができました。

当財団の広報誌「げんぶれあい福井」につきましては、ここ数年、厳しい財団運営に伴う事業規模縮小により休刊しておりましたが、今回6年ぶりに第51号として復刊することといたしました。

地域の皆様との架け橋となる本誌を通して当財団の活動をお知らせするとともに、県内の文化活動等を紹介し、皆様との絆を更に深めてまいりたいと思います。

原子力発電を取り巻く情勢は大変厳しい状況にありますが、地域に根ざした財団運営を行うよう、県、市町、文化団体等と連携して、地域文化の更なる振興に取り組んでまいります。

今後とも、一層のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



公益財団法人 げんぶれあい福井財団

理事長 師尾 直登

財団シンボルマーク

公益財団法人「げんぶれあい福井財団」は、福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民のみなさんとの絆を大切にした広報誌を目指します。



目次 51

●理事長あいさつ	2
●ふくいの伝統行事「坂尻のガリアイ」	3
●特別寄稿	4 ~ 5
●ふるさと大賞写真コンテスト	6 ~ 7
●げんぶれあい芸術新人賞	8
●地域の文化活動	9
●情報ファイル	10 ~ 11
●助成事業募集案内等	12

表紙の説明『美浜町坂尻のガリアイ』

「ガリアイ」は「狩り合う」の転訛。若狭の小正月行事の「キツネガリ（キツネガエリ）」のことで、少年たちが夕方村通りを祝い槌で地面を激しく叩き、ガリアイの文句を歌いながら悪獣の狐を村境へと追放する來訪神行事の一種。「地頭殿の仰せでキツネガリするといの」という歌には、江戸時代以前の支配者によって歳時習俗が命じられた時代的な経緯がわかります。いわば子供たちは正月の神様（年神・歳徳神）の代理として、若狭地方では新年を予祝する「戸祝い」も同日に行われるところに特徴があります。なお、福井県では本格的な戸祝い・キツネガリ調査が行われており、全国的に注目されています。



(写真撮影：吉田俊雄 氏)

ふくいの伝統行事

福井県無形民俗文化財

「坂尻のガリアイ」

美浜町



門松を用いた祝い槌



休憩時のbingoゲームを楽しむ子どもたち

た祝い槌で激しく地面を叩きながら、
地頭殿の仰せでキツネガリする
とい。ガリアイ、ガリアイと大声で
喚き、村中の狐を村外へと
追い立てます。

元来、男子のみの行事でしたが、戦後から女子児童が参加しないのは不適当との意見があり、女子も銘々が拍子木を叩いて「火の用心」と唱えて村中を回り、火災防止の「カマドマツリ」の一端を担うことで、言わば共同体の規範を学びます。

なお、子どもが外泊するのは風紀上問題があるとの理由により、現在は「ガリアイノヤド」には泊まらず、全員帰宅することになっています。各地で行

われているドンドド以前舟小屋に引火することがあり、それ以降当地では家ごとに浜辺で松飾りを焼却するようになりました。

唱え文句の「地頭殿」の意味が子どもたちは理解できず、現在は「地蔵殿」に変化していますが、江戸時代以前の公権力の職名である「地頭殿」が「仰せ」、すなわち「布令」により狐狩りを命じてしていることがよくわかります。

「ガリアイ」（キツネガリ）や「戸祝い」は、仮面仮装をして家々を訪ね子どもたちを厳しく躊躇する東北の「ナマハゲ」や「セネカ」「カゼドリ」（九州にもあり）と異なり、子どもたちが年神（正月さん、歳徳神）の代理として、削り掛けのヴァリエーションの祝い棒を所持し、呪句や祝言を唱えて各家を回る「来訪神」の一種であり、現在福井県では「福井の戸祝いとキツネガリ調査委員会」によって、一昨年から嶺南地域34か所の調査が行われております。

なお、嶺北の越前海岸の漁村には、「アマメン（アマメハギ）」（福井市白浜）や「アップポッシャ」（同・越廻茱崎）と呼ばれるナマハゲ系の来訪神行事が伝えられており、若越の民俗文化の相違がよくわかります。

（日本地名研究所 所長 金田久章氏）



ガリアイ



戸祝い



火の用心の拍子木を叩いて
村中を回る「カマドマツリ」
(金田久章氏撮影)

さらなる文化振興とゆとりある地域づくりを目指して

「げんでんふれあい福井」六年ぶりの発刊！

「天才と凡人の間」

日本地名研究所

所長 金田 久璋 氏



「天才はよく
天才を知る」と
いう諺がある。

民俗学者で日本
地名研究所初代
所長の谷川健一先生（文化功労者）の
ご兄弟は、天才・英才・鬼才・異才・
秀才ぞろいの一家。さしづめ長男の健
一は柳田国男・折口信夫に続く現代の
知識の巨人とされ、詩人として六、七〇
年代の全共闘時代の寵児と目された次
男の雁ともに天才と呼ばれた。その谷

川健一先生から、初めてお宅へ参上し
た折に、のつけから「お前は俺の弟子
だろう」と申される。言わば「私淑」
から「師事」に変わった一瞬である。
三十九歳のことだった。

その谷川先生から「お前は天才な
だ」と諭されたことは、一介の田舎者の
民俗学の研究者にとってまさしく驚
天動地のことであった。毎年行われる
食会当日の日記の一節（二〇〇四年五
月二十一日）。「閉会後、谷川先生の部
屋で一人だけで九時半まで雑談。『学
歴を気にしない限りお前は天才との
こと』『よく聞きなさい。お前には
な、学歴コンプレックスがある。そん

なもんは一切氣にすることはない。大
学になぞ行くな。型枠に嵌つて個性が
なくなるだけだ』云々。その年の春
に、京都造形芸術大学通信教育部に入
学（中退）したことを、一切知らずに
エールを込めて直言されたことに、心
中を見透かされた気がした。まさしく、
師の慧眼畏るべし。その頃師は『独学
のすすめ—時代を超えた巨人たち』（晶
文社）を出されており、高卒ながら私
が国立歴史民俗博物館や国際日本文化
研究センターの共同研究員をしていた
こともあって、独学で東大教授になつ
た鳥居龍藏や『大日本地名辞書』の著
者の吉田東伍に重ねておられたのかも
しれない。

一詩人としては東京で鬼才視された
ものの、むろん、一介の私ごときが天
才である筈はない。所詮は唯のカラ
ス天狗がいいことだ。ただ、何がし
かの特異な閃きが眞わつてるとすれ
ば、再々中沢新一氏が触れているよう
に、中高校以来詩作の上で「類化性能」
を鍛錬してきたこと、「すなわち」「比喩
で物を見、比喩で物を考えることに
ある。兄貴分の野本寛一先生（文化功
労者）によると、編集者の話では民俗
学の研究者の中で、二人名文家がいて、
その一人のこと。恐らく井上通泰・
柳田国男兄弟の和歌の師である曾祖父、
松波資之のDNAをいたさか受けつい
でいるのかもしねない。

高校の頃からその片鱗があつたのか、
敦賀高校の国語担当の小辻幸雄先生か
ら「天才」視され、若気の至りでラン
ボーの師であるイザンバールに見立て、
再々手紙のやり取りをしたものだった。
高校卒業後師の勧めで『ゆきのした』
の定期読者となり、連作『岸辺への光
景』を発表したところ、詩人の則武三
雄氏から「五十年に一度の詩人が現れ
た」と感激され、数冊購入して知人に
配られたとも聞く。また、現代日本民
俗学のリーダーである福田アジオ先生
から六十枚の原稿を依頼され、『民俗
学論叢』に「同族神の試論的考察」を
発表（日本民衆史叢書『祖靈信仰』所
収）。それを読まれた杉原丈夫先生（福
井大学名誉教授・元県立博物館館長）
は「初めて福井から民俗学者が生まれ
た」と喜ばれたともいう（小辻先生談）。

当時福井民俗の会の会長をされておら
れ、言わば後進への期待を込めたご祝
儀発言であろう。京大卒の記号論理學
者でありながら自ら民俗学者とは思つ
ておられなかつたらしい。関西学園大
学の島村恭則教授によれば、日本を代
表する民間学者の一人とするが、そも
そも民俗学は民間学なのである。

三月末で、予定通りなら放送大学を
無事卒業となる。名刺の裏にはヴエル
レーヌの絵とともに、アルチユール・
ランボーの『地獄の一季節』の一節が
引いてある。「この俺が！ 一切の道徳
を免ぜられた道士が天使と自ら思つて
いた俺、僕が務めを探しに、ざらつ
く現実を抱きしめに、土に帰る！ 百
姓だ！」。ようやく一介の学士として
平々凡々たる百姓となる。もはや、師
が心配されたように「型枠」に嵌めら

れるがどき年でもない。当年七十八
歳。さてさて、大学院はどうするやら。
博論はこれまで何度も何度か勧められたが、
谷川御大が京都大学から『南島文学發
生論』で博士号を授与するとの打診が
あったものの、固辞された先例があり、
当方もそれに従う。権威に媚びない
清々しい生き方を九十二歳の生涯を通
じて示された。

年度末には貴財団のご支援を得て、
若狭路文化研究所から『若狭あどうが
たり集成』（岩田書院発売）が刊行さ
れる。民俗採訪の折々の約四十年間の
集大成である。五年間に涉つて翻字を
された「ふくい昔ばなし大学再話研究
会」の皆様と、解説を担当された田中
文雅先生（元就実女子大学教授）には
深い感謝をお伝えしたい。恐らく、現
在県内には地元に口承された昔話を語
られるお年寄りは殆んどいない。再話
を通してホンモノの昔話が継承される
ことを願つておる。

「文化の果たす役割」
(一社) 福井県文化協議会
会長 中嶋 茂男 氏

文化の果たす役割、人の精神を育む
スポーツ文化、人の心の豊かさを育む
文化芸術。この「文化力」とは、いか
なる状況・状態においても、人の心の
支えとなり、励まし、慰め、そして勇
気づける。その意義は更に大きくま
さに人間の生きる
道、人間形成へ
の礎であります。

我が国、日本
の伝統文化は「わ



び・さび」を始め、礼節を重んずる精神文化を共有します。その意味で世界が大きいに評価するところです。おもてなしの文化を始め、人を敬う心を待つ日本人の人格の素晴らしいことに繋がります。それ故にこの素晴らしい日本文化の伝承・継承・後継者育成が是非、必要となります。

残念ながら、日本の伝統文化は廃れ、失われつつあります。我々文化に携わる者として、どのようにしたら古き良き日本の伝統文化を残すかが課題であり問題となります。

一昨年からのコロナ禍の中、日本ではオリンピック、パラリンピックが開催され、開催の是非はともかく選手多くの活躍で心躍り、心熱くなりました。そして、極めつけは、勝者の方々のコメントの中に、まず、この大会が開催されたことへの感謝と私達のために多くの方々が携わったことへの感謝の気持ちを話され、共に戦った相手の方への思いやり、心のこもった振る舞いがメダルの色より尊く、心打たれ、その接する態度の素晴らしさに感動しました。

若き人達、これから日本人にも日本たる心が残され、受け継がれることに感動を覚えました。このことは昔から日本の生活文化の中、日本人が自然に身につけ、人としての「人道」が養われた「文化力」の賜物と思われます。その意味からも日本の文化の果たす役割の大切さを感じ、人間形成の基礎となる日本文化は今後も大切に継承していかねばなりません。

今後の福井県文化協議会としては、福井に埋もれし古き良き文化、廃れ

ゆく文化の掘

り起こし、発

掘・再生・復

元に力を注ぎ、

地域社会の

人々との交流

を促進、文化

の活性に繋げ

る村興し、町

興しに役立て、

福井県の文化、

发展、向上に繋げたい

と思います。

また、文化は生き物、日々進化しています。古き良き文化を継承、育成しつつ、新しい文化創造も試みる、守るだけではなく時代時代にあつた、新しく生まれ来る文化にも理解を示し、オリンピックに新種目をどんどん取り入れられたように時代に沿つた、新しい文化の創造に力を注ぎ、「文化力」で人々に勇気を与え、夢を膨らます社会を目指すべきと思います。

文化に理解の深い「げんでんふれあい福井財団」の口頭の強いお力添えには感謝を申し上げますと共に、今後も更なるご支援を頂けますようお願いしたいと思います。

「地域ミニユニークティイの構築に向けて (SDGsへの取組み)」

福井県連合婦人会

会長 田村洋子 氏

「げんでんふれ

あい福井」第五

十一号の発刊、誠

にうれしく思いま

す。心より感謝申

し上げます。

今、全世界でSDGs（持続可能な開発目標）に取り組んでいます。行政、企業、団体、更に、一人ひとりが、何が出来るのか。何をするべきなのか。を真剣に考える必要性を思います。新型コロナウイルス感染拡大防止対策と経済成長を考えるとき、今回の六年ぶりの第五十一号の発刊には重要な使命があると思います。

創刊号から第五十号までには、多くの芸術家や文化人、地域の歴史等の紹介を掲載されたことでしよう。福井県にとって、これ程の大きな財産はないでしょう。

ところで、当会も福井県の「ふくいのSDGsパートナー」に登録をいたしました。私たちは、「活力ある社会を築くため、いきいきとした地域活動を展開しよう」という活動方針のもと、青少年育成、消費者問題、人と自然が調和した環境・エネルギー問題、防災意識の向上、男女共同参画社会づくりの促進など、多方面にわたり活動しております。また、平成二十五年からは、

食品ロス削減（おいしいふくい食べり運動）を福井県との協働事業として展開しています。私たちは、各市町の幼・保育園に出向き、子どもたちと一緒に「食事に対する感謝の気持ちを忘れずにネ!!」と、楽しみながら学習会をしております。また、各イベントにて、アンケート調査、協力店への訪問などの活動も継続しています。消費者の一人として、エシカル消費（人・社会・地域・環境に配慮した消費行動）の促進、地産地消の推進、雑誌（リデュース・リ

ユース・リサイクル活動）に取り組んでおります。また、昨今の自然災害に必要な知恵、知識、判断力を養うための学習会・研修会の開催に力を入れています。

今後も、超少子高齢化社会の現状を鑑み、老若男女を問わず「男女共同参画・共生社会づくり」の大切さを啓発推進していくことが、私たちの努めであると思います。

人間として心豊かな日常を過ごすは、地域の歴史・文化を知つてこそ地域の中で成長し、生活する術を学んでいくものだと思います。正にこれこそが地域「ミニユニークティイ」を構築することだと考えます。

貴財団には、今後とも、福井県内の歴史、文化、芸術（音楽・絵画・書道）など、あらゆる文化活動への新人の发掘はもとより、継承に更なる力を發揮していただきますよう期待をしております。この「げんでんふれあい福井」が多くの方々にとって待ち遠しい!!広報誌となりますよう節に願っております。

今後とも、貴財団のまますますのご発展をご祈念申し上げまして、「げんでんふれあい福井」第五十一号発刊にあたりましての御祝いのことばとさせていただきます。



おいしいふくい食べり運動（食べりダンス）



現代幸若舞の復元・復活



福井県連合婦人会

会長 田村洋子 氏

「げんでんふれ

あい福井」第五

十一号の発刊、誠

にうれしく思いま

す。心より感謝申

テーマ

春夏秋冬　ふるさとの 魅力・しあわせ・再発見！



大賞
ふるさと

安井 瑛美佳さん
(永平寺町)

上出来

心に沁みわたる梅味の笑顔！満場一致で審査員のハートを射抜いたのは特別な“スマイル”であった。トロピカルな空気感とともに、酸っぱい梅干しの香りも漂ってきてそうだ。真上からの強い日差しの中、通常は笠をかぶった人物の顔が黒い影で隠されてしまうのだが、梅干し台が反射板の効果を生むことで、ピンク色に染まった満面の笑みが写真にとらえられた。てらいない一枚に見えて、撮影テクニックとしても“上出来”ではないか。プロをも唸らせる周到な作品とともに、本作のようにスマホ感覚で日常を慈しむように切り取る、普段着の写真が増えることを期待したい。

(講評／野田 訓生氏)

ふるさと賞



岡田 栄一さん（越前市）



坂本 英継さん（大野市）

一般の部「エサをむさぼる三兄弟」

一般の部「つくし三兄弟」

当財団では、「ふるさと福井の自然・歴史・文化」等の地域資源を題材にした写真コンテストを10年ぶりに行いました。
表彰式 令和3年11月21日
応募総数 107名 385点

ふるさと大賞写真コンテスト

優秀賞



「げんでんふるさと大賞 写真コンテスト」と
「げんでん芸術新人賞」で表彰された皆様

総評

審査委員長
写真家 水谷内 健次氏

「げんでんふるさと大賞」、この写真コンテストは10年ぶりに開催された。応募された作品を見ながら、時間は流れても身近な暮らしは変わることなく温かで、自然もまだ十分に豊かであることに嬉しさと安堵を覚えた。大賞となつた安井さんの「上出来」は、素直な明るさに満ちた作品である。庭先で梅の天日干しを何年も続けているのである。女性の笑顔は、充足感に満ちている。背景の建物や木々からは、長きに渡りそこに生きた人々の営みが感じられ、なつかしさがある。ふるさと賞の岡田さんの作品は、工事でもらう幼鳥の必死さと落ち着いた様子の親鳥のやりとりがおもしろい。県内でコウノトリを見守ることのできるようになつたことは大きな喜びである。坂本さんの作品からは、春の訪れた。今後は、学生の挑戦にも期待したい。



青山 きくゑさん (鯖江市)



上野谷 絹代さん (越前市)

一般の部 「あふれる笑顔」



岩壁 由依さん (鯖江市)

学生の部 「この光景に幸あれ」



吉田 隆一さん (福井市)

一般の部 「夕暮れ時」

協賛社賞



林 昌尚さん (越前市)

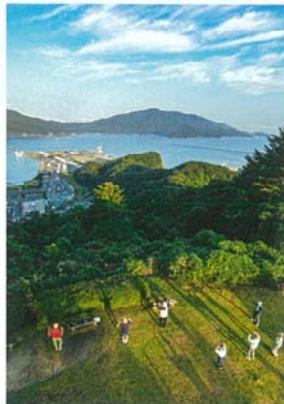
「溪流の貴公子」



三田村 久美子さん (鯖江市)

「入魂」

福井県カメラ商組合賞



藤村 留美さん (敦賀市)

「一日の始まり」

入選作品一覧 (敬称略) すべて一般の部

	作品名	受賞者
アサギマダラの楽園	観演!	藤田 幸雄 (敦賀市)
まほろば	瀧におぼれる	前田 博己 (福井市)
明日に架ける橋	漁港	吉田 俊雄 (敦賀市)
夜空の花	浮き太鼓	竹内 勉 (福井市)
城地	秋彩	原田 壽 (敦賀市)
明見 (鯖江市)	飛沫む	片岡 修一 (越前市)
竹内 常子 (鯖江市)	パフォーマンスに大爆笑	郡谷 正喜 (福井市)
加藤 公和 (鯖江市)	とびっきりのボートレース	小林 法性 (坂井市)
堺川 恭司 (福井市)	オリソーピック聖火リレー	佐々木 定子 (福井市)
寺尾美代子 (福井市)	電車と暮らす	大谷 繁一 (坂井市)
渡邊 広 (敦賀市)	ふるさとの夕景	江守智加枝 (福井市)
坂井 敬治 (福井市)	ゆつくり頑ぐね	郡谷 春美 (福井市)
佐々木 誠 (福井市)	電車と暮らす	佐々木 定子 (福井市)
坂井 佳代子 (福井市)	静かな巡行	佐々木 修 (大野市)
根岸 泰幸 (越前市)	変わらぬ日常	清水 定子 (福井市)
坂井 敬治 (福井市)	オリンピック聖火リレー	大谷 繁一 (坂井市)
佐々木 誠 (福井市)	とびっきりのボートレース	吉田 俊雄 (敦賀市)
坂井 佳代子 (福井市)	電車と暮らす	吉田 俊治 (坂井市)
寺尾美代子 (福井市)	静かな巡行	吉田 俊治 (坂井市)
渡邊 広 (敦賀市)	ふるさとの夕景	吉田 俊治 (坂井市)
坂井 敬治 (福井市)	ゆつくり頑ぐね	吉田 俊治 (坂井市)
佐々木 誠 (福井市)	電車と暮らす	吉田 俊治 (坂井市)
佐々木 修 (大野市)	とびっきりのボートレース	吉田 俊治 (坂井市)
アサギマダラの楽園	集う	藤村 留美 (敦賀市)
まほろば	休日	藤村 留美 (敦賀市)
明日に架ける橋	行列	藤村 留美 (敦賀市)
夜空の花	夕焼け散歩	藤村 留美 (敦賀市)
城地	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
明見 (鯖江市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
竹内 常子 (鯖江市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
加藤 公和 (鯖江市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
堺川 恭司 (福井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
寺尾美代子 (福井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
渡邊 広 (敦賀市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
坂井 敬治 (福井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
佐々木 誠 (福井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
佐々木 修 (大野市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
清水 定子 (福井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
大谷 繁一 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	歓喜	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	熟練の技	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	ブルーが映える	藤村 留美 (敦賀市)
吉田 俊治 (坂井市)	初雪	藤村 留美 (敦

令和3年度

げんでん 芸術新人賞

当財団では、福井県の文化・芸術の振興と育成に寄与することを目的に顕彰制度を設けており、本年度は県内在住の新人芸術家で将来を大いに期待される芸術活動を推奨する賞として「げんでん芸術新人賞」を司辻さん（工芸＝陶芸）、中嶋さん（剣詩舞道）、中田さん（洋楽＝声楽・ソプラノ）の3名に贈呈しました。

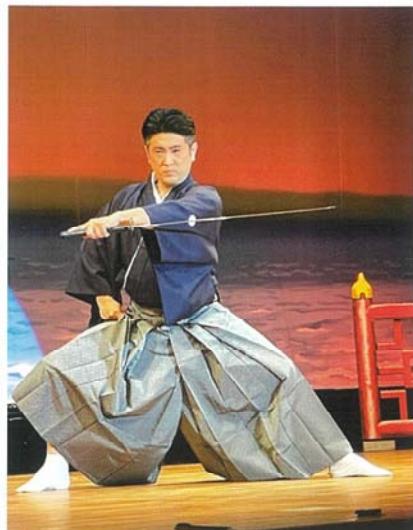
工芸（陶芸）

司辻 健司さん

（越前町）



第58回日本現代工芸美術展
「現代工芸副理事長賞」受賞作品



福井県文化協議会主催
「第1回文化芸術祭での演舞」



2015福井県新人演奏会
オーディション合格

越前焼「光堯」の窯元として伝統工芸離れが進む若い世代に越前焼の魅力を伝えている。日本酒利き酒師や福井県工業技術センターとのコラボによる商品開発、大手セレクトショップとの連携による薄造りのオリジナルカップ制作などに取り組んだ。また、毎年日本現代工芸美術展等に作品を発表し、令和3年には日展工芸美術部門で「特選」を受賞した。最近では和紙や漆器と合わせた難しい技術による作品作りにも意欲的に挑戦している。

剣詩舞道

中嶋 将之さん

（福井市）



全国トップクラスの
若手剣詩舞道家で
幼少年の育成に尽力

洋楽
(声楽・ソプラノ)

中田 けいさん

（美浜町）



数多くのコンサートの企画や
子供たちへの音楽指導など
地元で精力的に活動

6歳で宗生流剣詩舞道家元の父に師事する。全国剣詩舞各種コンクールで優勝経験があり、現在はその審査員を務めている。平成11年には日中友好事業として杭州市で京昆劇団と共に演じるほか、シンセサイザー・太鼓などを和風ミユージカル調に芝居に取り入れて毎年舞台発表している。また、全国高等学校総合文化祭吟詠剣詩舞部の指導者として県代表チームを16年引率し、平成28年に優勝に導くなど、幼少年育成に尽力している。

同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻声楽コースを卒業し、出身地の敦賀市の小中学校で講師を務める傍ら、声楽の技術向上に励んできた。福井県音楽コンクール知事賞など多くの賞を獲得、平成29年度「越のルビーアーティストバンク」オーディションに合格し県内で活動を重ねている。また、「つながる」ソプラノデュオとしてコンサートを数多く企画するほか、合唱サークルJOY（ジョイ）の立ち上げや子供たちの指導育成に尽力している。

授賞式 令和3年11月21日

地域の文化活動

財団助成事業の紹介
当財団では毎年、県内の文化団体等の事業活動に助成を行っています。
助成事業の中から紹介します。

福井県文化芸術祭

(フェニックス・プラザ)

—8月 福井県文化協議会—



洋舞（舞台部門）



生け花（展示部門）



書道（展示部門）

新型コロナウイルス感染症の影響で活動機会が失われた県内芸術家の発表の場として「第2回福井県文化芸術祭」が令和3年8月8日福井市フェニックス・プラザにて開催されました。このイベントは県内で活躍されている若手芸術家による舞台発表や絵画・書などの展示であり、昨年度に引き続き実施されました。舞台では8団体14チームが参加し、フルートやピアノによるコロナ終息を祈った情感溢れる演奏のほか、バレエや吟詠剣詩舞による迫力ある演技、華麗な日本舞踊などが次々と披露され会場は魅了されていました。また、約90人の出品による生け花や絵画、書道、俳句・川柳などが展示され、どの作品にも観客が熱心に見入るなど、真夏の中での芸術満載の一日となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響で活動機会が失われた県内芸術家の発表の場として「第2回福井県文化芸術祭」が令和3年8月8日福井市フェニックス・プラザにて開催されました。このイベントは県内で活躍している若手芸術家による舞台発表や絵画・書などの展示であり、昨年度に引き続き実施されました。舞台では8団体14チームが参加し、フルートやピアノによるコロナ終息を祈った情感溢れる演奏のほか、バレエや吟詠剣詩舞による迫力ある演技、華麗な日本舞踊などが次々と披露され会場は魅了されていました。また、約90人の出品による生け花や絵画、書道、俳句・川柳などが展示され、どの作品にも観客が熱心に見入るなど、真夏の中での芸術満載の一日となりました。

太鼓魂2021

(いまだて芸術館)

—10月 福井県太鼓連盟—



太鼓魂2021

和太鼓のふれあいフェスティバル「太鼓魂2021」が、令和3年10月24日越前市いまだて芸術館にて開催されました。このイベントは、日本太鼓ジュニアコンクール県予選を兼ねており、毎年実施されています。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により参加団体が十分な練習時間が取れないなかで、県内4団体5チームが出場しました。当日は、どの出場団体・チームも日頃の練習の成果を思う存分ぶつけるように、

色々な種類の太

鼓を元気に打

ち鳴らし、勇壮

な意気の合った

音を響かせなが

ら技を競い合い

ました。会場か

らは子供たちの

熱氣ある力強い

“ばちさばき”

に大きな拍手が

送られました。

県内外で活躍する声楽家のグループ「ごもれ陽の会」のヴォーカルコンサートが令和3年10月31日福井市のハーモニーホールふくいにて開催されました。今回20回目となる記念のコンサートでは、メンバーがオペラのアリアやアンサンブルを次々と披露し、訪れた約300人の観客は美しさと迫力ある歌声に酔っていました。

また、優れた演出のもとでの全出演者による華やかなステージの場面では、表現力溢れる歌と演技に惜しみない拍手が鳴りやまず、晩秋のひと時を楽しんでいました。

こもれ陽の会 第20回 ヴォーカルコンサート

（ハーモニーホールふくい）

—10月 こもれ陽の会—



歌劇「ホフマン物語」より三重唱



全出演者による喜歌劇「メリー・ウィドウ」より

ふくいきらめきフェスティバル2021（令和3年6月19日）

今こそチェンジ！自分の力、みんなの力～自分が変われば世界が変わる～

女性財団と当財団との
共催事業

公益財団法人ふくい女性財団は、40の賛助団体で実行委員会を組織して、福井県が「男女共同参画推進月間」と定める6月に、毎年「ふくいきらめきフェスティバル」を開催しています。長引くコロナ禍において、イベントの開催方法を模索・試行していくなか、今年度は公益財団法人げんでんふれあい福井財団との共催のもと、福井県生活学習館（ユー・アイふくい）をメイン会場、パレア若狭をサテライト会場として開催しました。

フェスティバルは、国際ゾンタクラブ啓新高等学校によるオープニング演奏で始まりました。同クラブは、吹奏楽部と日本音楽部で組織されており、女性の地位向上に取り組む国際ゾンタクラブより2019年に認証を受けています。吹奏楽と琴の競演は新鮮で、オープニングに相応しいものでした。



オープニング演奏

治知事や宮本俊県議会副議長、市長会を代表して石山志保大野市長にご祝辞をいただきました。その後、メイン企画の「記念講演」がスタート。東京工業大学准教授の治部れんげ氏がリモートにて登壇。「今こそチェンジ！自分の力、みんなの力～無意識のジェンダー・バイアスを克服する」と題した講演では、誰しもが持つている「無意識のジェンダー・バイアス」がどういったものであるのか、そしてそれがあなたの人生や社会にどのように影響をもたらしているのかについて、分かりやすく伝えられました。講師は、「これららの思い込みをチェンジしないと女性リーダーは増えず、男性の生き方の多様性も広がらない。みなさんの中に、ジェンダーに対する無意識のバイアスがあると気づかれたのなら、この機会に、無意識のジェンダー・バイアスをチェンジしました」と来場者に投げかけました。



田村実行委員長挨拶



杉本知事 祝辞

若狭会場には、オープニングから記念講演までをライブ中継しました。フェスティバルの後半は、それぞれの会場において、全8種類の講座をリアルに開催しました。福井会場で実施した「自分の中のジェンダー・バイアスに名前をつけてみよう」と題したワークショップでは、高校生から中高年までの幅広い世代が、活動に意見を交わしている様子が印象的でした。また、映画「ママをやめてもいいですか」の上映や、己書・ブリービクス・アロマスプレーづくりやウッドバーニング（焼き絵）といった体験講座があり、どれも好評でした。



リモートによる記念講演
講師：治部れんげ氏



今、心身を整える～10秒ポーズ健康法
(若狭会場)

そこで、本来の体の力が目覚めていくようだった」との感想も聞かれました。そのほか、日頃の活動を知つてもうためのパネル展示や、毎年恒例の美味しいもの販売も行い、2会場での学びと交流の「ふくいきらめきフェスティバル」は、延べ600人弱の皆さまにご参加いただき、共に男女共同参画社会の実現への思いを深めました。



お庭は自然の薬箱～日々に活かせる薬草講座
(若狭会場)

ソプラノSolo & マリンバDuo オータムコンサート（令和3年9月23日）

当財団
主催事業



環として、当財団主催のソプラノ Solo & マリンバ Duo 「オータムコンサート」を令和3年9月23日、敦賀市きらめきみなと館において開催しました。

今回は、敦賀市出身のソプラノ歌手 中田けいさん、福井市在住のピアニスト 竹沢友里さん、福井県内で活動されているマリンバデュオの平岡愛子さん、山崎智里さんを迎えて、当財団として10年ぶりの開催となるコンサートとなりました。

当日は、地元福井で活躍されるいの出演者の歌声や演奏を直に聴けるということもあり、事前配布のチケットは直ぐになくなる人気ぶりで、県内各地から約100人の熱心な観客、ファンが詰めかけました。

会場からは、出演者の方々に盛んな拍手が止むこと無く送られるとともに、一緒に来場されたご家族やお友達と共に秋のひとときを十分に楽しんでいました。

優れた芸術鑑賞の機会提供の一環として、当財団主催のソプラノ Solo & マリンバ Duo 「オータムコンサート」を令和3年9月23日、敦賀市きらめきみなと館において開催しました。

第1部では、ソプラノ歌手の中田けいさんが、ピアニストの竹沢友里さんの伴奏で「紅葉」など秋の童謡や日本のうたのメドレーをはじめ、声量あるオペラなどを披露され、その歌声に観客は秋一色に包まれ、しつとりと聴き入っていました。また、地元の歌「大敦賀行進曲」は敦賀市民には馴染みが強く、観客は手拍子で参加し、さらにアンコールを要請するなど、会場一体となって盛り上がりました。

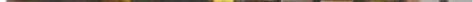
● 第1部



平岡 愛子 山崎 智里
Pulse Du (パルス ドゥ)

● 第2部

第2部では、福井県出身の打楽器奏者で、女性デュオ「Pulse Du (パルス ドゥ)」として県内で活躍されている平岡愛子さんと山崎智里さんのお一人に登場いただき、マリンバのデュオによる演奏を披露いたしました。躍动感溢れるポップスやリズムに乗ったジャズなど国内外の多彩な曲目を、息の合ったマリンバやパークッシュョンによるアレンジ演奏で聞くことができ、観客もその中に溶け込んでいました。



PROGRAM 第2部 マリンバ・デュオ

- 虹の彼方に (ハロルド・アーレン)
- 火祭りの踊り (ファリヤ)
- 「赤とんぼ」によるポエム (山田耕作／安田英充央)
- My Way (クロード・フランソワ、ジャック・レヴォー) ほか



中田 けい (ソプラノ)
竹沢 友里 (ピアノ)

PROGRAM 第1部 ソプラノ

- オペラ「ジャンニ・スキッキ」から『私のお父さん』(ブッチーニ)
- 秋のうたメドレー (里の秋、もみじ ほか)
- 命のビザ ~私の名前を忘れないで~ (堂田展江)
- 大敦賀行進曲 (古閑裕而) ほか





財団ふれあい通信

令和4年度 財団助成事業の募集について

財団では、令和4年度において文化活動等の事業を行うため助成を受けたい団体を募集しています。

対象団体の要件

- 1 福井県内に活動の本拠を置く団体
- 2 構成員（会員）が原則として20名以上の団体
- 3 令和4年4月1日現在で、設立後2年を経過している団体
- 4 営利を目的とせず、明確な会計処理を実施・報告できる団体

応募方法

●財団所定の「助成事業応募要領」により「推薦団体」の推薦を受け、助成事業申請書を当財団に提出してください。

申請期間：令和3年12月15日（水）～令和4年2月15日（火）まで

●所定の申請書のほか、事業計画、予算書など添付していただく書類等があります。
詳しいことは「げんでんふれあい福井財団（☎ 0770-21-0291）」にお問合せくださいか、当財団ホームページ（<https://www.genden.or.jp>）をご覧ください。

財団イベント INFORMATION

イベント名	内 容	期 日	場 所	入場料・その他
ハーモニーびくにっく2021 第3回「リズムに乗って」	クラシックコンサート	令和4年 2月16日(水) 午前10時～	福井市 ハーモニーホール ふくい(大ホール)	福井県文化振興事業団 主催(当財団協賛) 入場無料(申込要)
福井県新人演奏会 2022	オーディション(公開)	令和4年 2月20日(日) 午前10時～(予定)	福井市 ハーモニーホール ふくい(小ホール)	福井県文化振興事業団 主催(当財団協賛) 〈オーディション〉 入場無料 〈新人演奏会〉 全席自由500円
	新人演奏会	令和4年 3月20日(日) 午後2時～		
今川裕代&高井敏弘 デュオコンサート 受け継ぐ未来の夢 ～未来を夢見る子どもたち を育てるアンサンブル～	第1部 高井敏弘&リトルピアニスト 第2部 今川裕代&高井敏弘	令和4年 3月6日(日) 午後2時～	若狭町 パレア若狭音楽ホール	パレア若狭主催 (当財団協賛) 一般 1,500円 高校生以下 500円 (全席指定)